

松山議員

エコミュージアムについて

問①エコミュージアムをどのように発展させ、第5次総合計画の中でどのように生かしているかと考えているか。

答①「わがまちげんき発展事業」は今年度が最終年度である。来年度以降後継事業を検討しているかを伺う。

②「幅広い分野で政策推進のベールに位置づけ、誇りと活力あるふるさとの実現を目指していく」事業の成果を踏まえ、さらに地元を根を張り継続していけるような施策を検討し、次期総合計画にも位置付けていきたい。

高齢者について

問①高齢者虐待防止の相談や対応などの現状はどのようになっているか。また、今後はどのような対策を進めていくつもりか。

②成年後見制度の利用と受け入れ体制はどのようになっているか。

③後見制度に相談システムの構築や活動のためのマンパワーの養成等が喫緊の課題であるが、市はどのように考えるか。



その他の質問  
・勝山市の防災関係について

答①21年度は、16件の虐待が確認され、改善するよう取り組んだ。今後も関係機関等とのネットワークを強化し、予防に向けた普及啓発活動の推進に努めていく。

②19年度から21年度で利用は3件。地域包括支援センターに社会福祉士があり、難しい事例等は法律相談等を活用し対応している。

③県の養成講座等の情報を積極的に発信したい。また、様々な相談に十分答えられるよう、資質向上に努めたい。

松村議員

学校再編の議論の進め方について

問①小中学校の再編に関して、小学校・中学校の校区別に座談会が開催された。しかしながら、市からの説明は再編のデメリットについて説明がされていない。再編のデメリットとその対応策をも提示してこそ冷静な議論ができるものと考えている。そこで、今回の再編に伴うデメリットとその対応策を伺う。

②再編をするか否かという論点とは別に、現在の教育現場が抱える問題を市教委は解決する意思があるのか。現場と教育委員会のあり方の問題や、現場の事務軽減など解決すべき問題は多岐にわたる。ここを解決せずに再編をしたとしても、単なる数合わせで終わるのではないかと所見を伺う。

答①これまでの座談会ではデメリットについて、質問やご意見にお答えする中で説明してきたが、今後の座談会等ではより整理した形で具体的に説明をしていきたいと考えている。

②あり方検討委員会では1クラス30人程度、中学校では1学年で

4クラス以上といった考え方が出ている。それに基づいた素案を提示しているが、単に学校が統合することによって自然的に生まれるメリットというものほかに、新しい学校としてこれまでにないような何かをそこから生み出していくというものを市の教育委員会、学校の先生方、有識者、地域の方のご意見も頂きながら考えていくことが必要であろうと考えている。

